

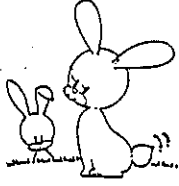
家族便り

父の変化

立町 和緒

三惠ホームの一員となり、父は少しずつ変わってきたようです。いくつかのサークル活動があるなか、若い頃詠んでいた俳句を又始め、先日訪ねるとその中の一作品が、壁に掛けてありました。故郷を想う内容であったように覚えていますが、これは郷愁ではなく今の自分を客観的に見つめる様に感じ、父は心に余裕の様なものができたのかなと思いました。

今までは、会えば私達家族の心配ばかり並べたてていたのですが、近頃は笑って過ごすことが多くなりました。臥床ばかりの日を過ぎていましたが今では、電動車椅子を身体の一部とし、直接外気に触れる事も出来、皆さんと接する機会に、恵まれることになりました。そこには父自身の努力があるのはもちろんだろうけれど何よりも父の周りの方々ホームの皆さんの影響が大だと思います。一年が過ぎた今ホームの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも父をよろしくお願い致します。



(高松市の息子さんより)

私の生きがい

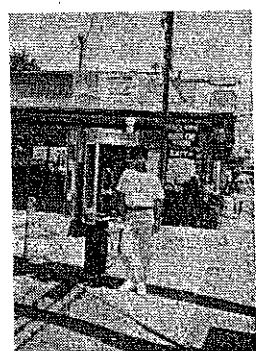
入所者 渡辺 菫子

始めは福祉展に出品するので手芸品を作ってた頼まれ、仕方無く作っていた手芸でしたが、矢野園長さんより「私が癌より嫌だと恐れている、痴呆症防止に一番良いリハビリに成る事だし、手芸店にも依頼して上げます、身体に応えない程度で作って見ないかね。」と感懐して下さいました。

私自身気付か無かった、手芸の才能？を引出し、盛り立てて頂いたからこそ、逆境の身なれど、創造的な人生を切り拓いて行ける事によって、無の日が脱却し、生甲斐を覚える日々に変えて頂きました先生に心から感謝致して居ります。

現在は、春と夏の角野荘のバザーと、町の文化祭等にて展示即売して頂き、拙き作品でも心待ちして下さいさるお方も有る由、呆け無い様にと下拵えに余念無く過して下さいます。「いつも喜んで居なさい。絶えず祈りなさい、総ての事に感謝しなさい」との御言葉を座右の銘とし、信仰に堅く立ち神の大きいなるみ恵と、皆様の愛に包まれ心身共に支えられて、ライフワークとして行く生甲斐を賜り喜びの日々を過させて頂いてます。

新任職員紹介



(事務所)

よるしくいんたひゅー

氏名 竹田 友也
 生年月日 昭和43年1月18日
 出身地 大阪
 趣味 ドライブ
 夢 あるけどヒミツ (夢はでっかく)

さようなら ありがとう

事務長代理の原 昭彦さんが七月より、新居浜角野荘へ転動されました。ニコニコとした丸い顔と、ちょっぴり前に出たおなかで回りをよく笑わせて下さいました。これからお体に気をつけてがんばって下さい。

